

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2019年
11月6日
第74号

ワレモコウ（バラ科）

薬用植物園内、第二圃場で、暗赤色の穂状花を付けているのがたくさん見られます。日当たりの良い山野の草原に生える多年草で、秋を代表する花の一つです。和名では「吾木香」などの漢字をあて、薬用として利用する芳香のあるキク科の木香（もっこう）に由来しますが、ワレモコウには香りがほとんどありません。根茎を地榆（チュ）といい、日本では民間薬として、止血、止瀉を目的として利用したり、煎じて口内炎などの「うがい」に利用します。中医学では、地榆は清熱解毒、止血涼血の薬能が当てられています。また中国では、苗や茎、開花した穂を春と夏に集め、苦味を取り除くためにお湯で軽く煮た後、炒め物として食べたりします。



オリーブ（モクセイ科）

カフェテリア入口側の門から薬用植物園に入ると、すぐ左側に、色が変わり始めた果実が見られます。地中海沿岸地域原産で日本では小豆島周辺で栽培されている常緑高木で、雌雄異株です。果実の色は、最初は緑で紅紫色、黒紫色と変化し、用途に応じて各段階で収穫します。今の段階の未熟果は、食用として塩漬けにして使用します。一方、オリーブ油は、12月頃の完熟した果実を圧搾して製造します。ちなみに日本薬局方では「オリブ油」として収載され、「皮膚の保護、日焼け炎症の防止、やけど、かぶれ」の効能を持つ外用の一般用医薬品として使用されるほか、軟膏基剤としても使用されます。

今、こんな草木が楽しめます！！